

令和3年度 「若年性認知症の人の社会参加活動支援事業」実施報告書

令和4年7月
千葉県健康福祉部高齢者福祉課

1 事業の背景と目的

若年性認知症は、65歳未満で発症した認知症のことであり、働き盛りの年代で、社会や家庭で重要な役割を担っている時期に発症するため、本人だけでなく、家族の生活にも影響が大きいと考えられる。

千葉県では、約1,900人の若年性認知症の人がいると推計されており、令和元年度若年性認知症実態調査を行ったところ、患者本人及び家族の58.2%が「社会参加の場が少なく、社会とのつながりが薄い」と回答していた。また43.8%が「就労に近い内容の軽作業やボランティアなどに取り組む場が必要」と感じていることが分かった。

若年性認知症の人は、発症前から就労していた職場に継続して就労できる場合もあるが、退職する人も多く、また、若くて体力もあることから高齢者のデイサービスではなじみにくいなど、活動の場や居場所が少ないという状況がある。

そこで県では、地域の企業と若年性認知症の人とのマッチングを行い、社会参加の機会を創出するモデル事業を実施することとした。

2 事業内容

認知症対応型デイサービス事業所等と地域の企業とが連携して、若年性認知症の人の継続的な社会参加の機会を創出するモデル事業を実施する。

【実施方法】

(1) モデル事業実施事業者の公募・決定

- モデル事業を実施する事業者を、全県を対象に企画提案方式により募集し、県高齢者福祉課において選考を行う。

(2) 協力企業等の調査

- 県が、県内企業に対してアンケート調査を実施し、モデル事業に協力し、若年性認知症の人に提供可能な作業がある企業等（以下、「協力企業等」という。）のリストを作成する。作成したリストはモデル事業実施事業者へ提供する。
- モデル事業実施事業者も自地域で協力企業等の情報を独自に収集する。

(3) 若年性認知症の人と協力企業等との連絡調整及び作業時のサポート

- ・ モデル事業実施事業者が、若年性認知症の人や家族の意向を聞きながら、協力企業等との作業内容のマッチングや連絡調整を行う。
- ・ モデル事業実施事業者は、若年性認知症の人が作業を行う際、作業現場に同行し、サポートするとともに、若年性認知症の人の社会参加活動が継続するよう支援する。

(4) 事業報告

- ・ 県は、報告会の実施や報告書の作成・配布により、取組結果を市町村や事業所等へ広く周知し、県内の実施事業所の増加を図る。

3 事業スケジュール

- ・ 令和3年7月26日～令和3年8月17日 モデル事業実施事業者公募
- ・ 令和3年9月 モデル事業実施事業者決定・契約事務
- ・ 令和3年10月12日～令和3年11月1日 協力企業等へのアンケート実施
- ・ 令和3年11月 順次活動開始
- ・ 令和4年3月 報告会
事業評価のためのアンケートを実施

4 実施結果

(1) モデル事業実施事業者の公募・決定

- ・ 令和3年7月26日～8月17日まで全県を対象に、モデル事業実施事業者の募集を行い、4事業者から応募があり、同4事業者と委託契約を締結した。

	事業者名	所在地	活動内容
1	有限会社オールフォアワン	千葉市花見川区	地域密着型 通所介護事業等 （「いしいさん家」）
2	NPO法人ケアラーネット みちくさ	柏市	認知症カフェ、 介護予防事業
3	NPO法人わっか	八千代市	地域づくり 地域子育て支援
4	NPO法人わ	九十九里町	居宅介護支援、 有料老人ホーム等

(2) 協力企業等の調査

- ・ 障害者就業・生活支援センターや千葉労働局からの情報をもとに、4 (1) で決定したモデル事業実施事業者の所在する市町村にある障害者雇用を行っている全74事業所へモデル事業への協力の可否等につきアンケートを実施したところ、4事業所より協力可能との回答があった。(回答回収は29事業所、回答率39.2%)

(3) モデル事業参加者の状況 ※詳細については「別紙1」参照

- ・ 参加人数 9名
- ・ 属性 (男性) 50代4名、60代2名 (女性) 50代2名、60代1名
- ・ 参加経緯 若年性認知症支援コーディネーターからの紹介 5名
モデル事業実施事業者の既存サービス利用者 4名
- ・ 作業頻度 週2～3回 1名 週1回 8名
- ・ 作業内容 農場での作業、フードバンクの食品回収
認知症カフェの手伝い、食器洗い、窓ふき
デイサービス等の昼食準備、片付け、窓ふき、庭掃除
社会福祉協議会で廃棄衣料から作られる糸の糸巻き作業
- ・ 報酬 時給625円：1名 食事提供：5名 なし：3名

(4) 事業評価アンケート ※詳細については「別紙2」参照

- ・ 令和4年3月末にモデル事業評価のためのアンケートを実施した。事業参加者や御家族には、事業への満足度や感想を伺い、協力企業等やモデル事業実施事業者には、本モデル事業の取組を継続し、取組に協力いただける企業等を増やしていくために必要なことについての御意見をいただいた。

ア) 対象及びアンケート内容

	対象者と対象者数	内 容
1	事業参加者 (9)	・ 事業への満足度 ・ 事業に参加して良かった点、(選択式) ・ 事業に参加して本人に変化があったか (ご家族のみ)
2	事業参加者の家族 (9)	
3	協力企業等 (5)	・ 協力企業を増やすために必要なこと ・ 若年性認知症の方が作業を継続するために必要なこと ・ 作業の対価を得られる仕組みとするために必要なこと

4	モデル事業 実施事業者（4）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業継続のための必要な費用及びその調達方法 ・ どのような支援をするスタッフが必要か、またその調達方法 ・ 協力企業を増やすために必要なこと ・ 事業参加者の集め方
---	-------------------	---

イ) アンケート結果

	対象者と回答数	内 容
1	事業参加者（8）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 満足（7）・不満（1） ・ 社会とのつながりを感じられた。 ・ やりがいのある作業に従事できた。 ・ 定期的に通う場所、居場所ができた。 ・ もっと参加したかった。
2	事業参加者の 家族（8）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 満足（7）・どちらでもない（1） ・ 事業に参加して本人に変化がある（7）・ない（1） ・ 定期的に通う場所、居場所ができた。 ・ 事業終了後のフォローをしてほしい。もっと続けてほしい。
3	協力企業等（4）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業側にも認知症への理解が必要。 ・ 事業参加へのメリットを広く情報発信することが必要。 ・ 作業継続のためには、サポート役のフォローが必要。 ・ 作業内容がシンプルで分かりやすいと作業を継続しやすい。 ・ 対価を得られる仕組みとするには、資金面の援助が必要。
4	モデル事業 実施事業者（4）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援スタッフの人件費や交通費が必要な経費として考えられる。 ・ 作業時にフォローするスタッフが必要。認知症の知識があり、本人・協力企業双方の事情を理解している人が望ましい。 ・ 協力企業を増やすために、商工会と一緒に事業の説明会を行う等の工夫が必要。 ・ 協力企業を増やすためには、短期間では難しい。企業と信頼関係を築く必要がある。 ・ 福祉と商業の連携は今後も必要であり、その間をつなぐ人材が重要だと思う。

5 次年度に向けての課題

事業評価アンケートでは、今回本事業に参加した若年性認知症の人の約9割が、「満足・とても満足」と回答している。また、事業参加者の家族からは、「本事業をきっかけに障害者の就労支援制度に結びついた」という回答もあり、事業参加者が、

社会とのつながりや居場所ができたと感じられたという点では、本事業の効果があったと考えられる。

一方で、事業参加者、家族の双方から、「もっと参加したい」、「今後もこのような活動を続けてもらいたい」という意見をいただいた。

また、参加に当たっては、若年性認知症の人をサポートするスタッフが必要であり、そのための人材の確保や育成が必要であること、協力企業を増やすためには、企業に対し認知症への理解をさらに呼びかけるとともに、事業参加へのメリット(企業のイメージ向上や社会貢献につながる、作業の人手を確保できる等)を広く情報発信することが必要であることなどの課題も明らかとなった。

さらに、今回対価を得て作業を行った事業参加者は1名のみであった。本事業が就労に近い内容の社会参加活動に結びつく支援となるよう、福祉部門と商工分野の連携強化や、若年性認知症の人に合った作業の切り分け等の工夫が求められる。

今後、若年性認知症の人の暮らす各地域の中で、継続的な社会参加活動を行うための体制整備が図られることが、本モデル事業の目指すところである。そのためには、本モデル事業の実施結果や課題を市町村、県内事業所、企業等と共有し、市町村と連携しながら取組を進めていく必要がある。

事業参加者の状況

	年齢	性別	作業 期間	作業 頻度	作業内容	参加の経緯等	謝礼
1	50代	男性	2021年11 月30日～3 月	週1回	農場での作業、フード バンクの食品回収	モデル事業実施事業者の既存サービスの利用者 「まだまだやれることがたくさんあるので、参加 してみようと思った。」	なし
2	50代	男性	2021年11 月30日～3 月	週2～3回	デイサービスで昼食準 備	モデル事業実施事業者の既存サービスの利用者 「まだ仕事をしたかったから」	食事提供
3	60代	男性	2021年11 月30日～3 月	週1回	農場での作業、フード バンクの食品回収	モデル事業実施事業者の既存サービスの利用者 「なにか人の役に立ちたいと思ったから」	なし
4	60代	男性	2021年11 月11日～1 月	週1回	デイサービス窓ふき、 庭掃除 認知症カフェの畑作 業、窓ふき	R2年8月、認知症疾患医療センターから、今後の 相談先として若年性認知症支援コーディネーター を紹介された。当時は仕事をしていた。同年退職 し自宅のみで過ごしている。妻とは会話がない。 あまり出かけるところもない。 本事業参加中、障害者就労支援の施設につな がり、1月より利用することとなったため、本事業の 参加は休止となった。	食事・ 収穫物 提供
5	60代	女性	2021年12 月9日～3 月	週1回	認知症カフェでの食器 洗い、窓ふき	始めは本人の近所の人が認知症カフェに連れてき た。カフェでスタッフとしてやっていた時期が あったが、症状が進み、排泄の問題が出てきたた め、中止した。今回のモデル事業でフォロース タッフがつけられるようになったので再開。自宅 で一人暮らし。言葉がでない。	食事提供
6	50代	女性	2022年2月 8日～3月	週1回	認知症カフェでの手伝 い	認知症疾患医療センターからコーディネーターへ つながる。居場所の相談。	食事提供
7	50代	男性	2021年12 月6日～3 月	週1回	糸を巻く作業	病院から就労中に若年性認知症支援コーディネ ーターへ相談するよう言われていたが、退職した後 に相談の電話が来た（R2年5月）。 生活困窮者の自立支援事業に参加している。やる ことないと言っている。	なし
8	50代	女性	2021年11 月10日～ 3月	週1回	デイサービスでの昼食 準備、片付け、イベン ト準備	R3年3月、認知症疾患医療センターに受診。当時 より若年性認知症支援コーディネーターが関わっ ている。家族が送迎するので通わせたい。	食事提供
9	50代	男性	2021年12 月22日～ 3月	週1回	有料老人ホーム内で昼 食準備	R2年5月、家族から若年性認知症支援コーデ ィネーターへ電話。「若年性認知症と言われたが、 情報が無い。どうしたらよいか。」日中の居場所 がない。	時給625円

参加者

50歳代 男性 週2～3回
50歳代 男性 週1回
60歳代 男性 週1回

作業内容

デイサービスでの補助：昼食準備
畑での作業：草取り、水やり、収穫
フードバンクに寄付された食品の回収

一日のスケジュール 一例

- ・ 50歳代 男性 11:00～12:30：調理補助
13:00～13:30：食器拭きなど
- ・ 50歳代 男性 11:00～12:00：食品回収
13:00～14:00：畑仕事補助
- ・ 60歳代 男性 11:00～12:00：食品回収
13:00～14:00：畑仕事補助

感想、課題など

（委託事業所職員、サポートスタッフより）

- ・ 「本当に助かります！」
- ・ 「マンツーマンでサポートできれば、雇用は最低賃金までは厳しいかもしれないけど、お互いに落としどころを探して同意が取れれば全然可能ですね」

（参加者より）

- 「人の役に立てて嬉しいです！」
- 「まだまだ仕事がしたいです。」

参加者

50歳代 男性 週1回
50歳代 女性 週1回

作業内容

- ・Tシャツヤーンの糸巻き
- ・デイサービスでの昼食準備、片付け、イベント準備

一日のスケジュール 一例

10:00 自宅送迎
10:45 柏井いしいさん家到着
12:00 お昼準備・お子さん手遊びなど
13:30 外出（食材の買い出しなど）
15:00 柏井いしいさん家出発→15:45自宅到着

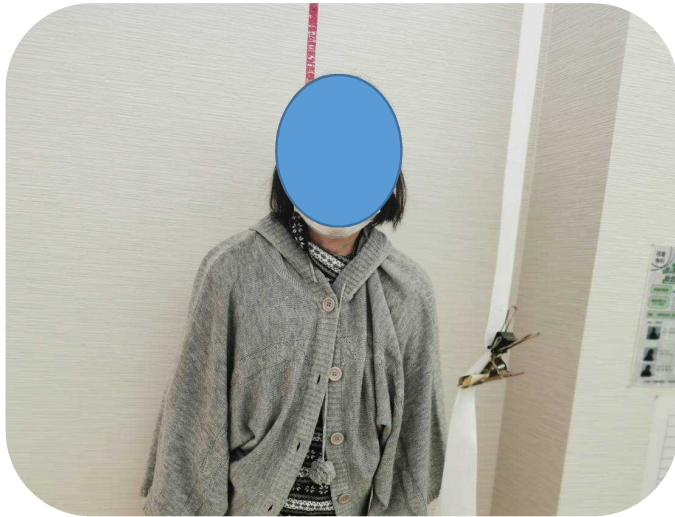
感想、課題など

（委託事業所職員、サポートスタッフより）
活動当初は、不安な気持ちが強く泣き出してしまう事もあったが、活動を継続していく事でデイサービスの職員、利用者とも顔なじみとなり安心して活動を継続する事ができた。ようやく出来上がった関係を、ここで終わらせる事なく、さらに活動の幅を広げたサポートを継続して行けるような人員や資金面を補助して頂けるような枠組み作りを望みます。

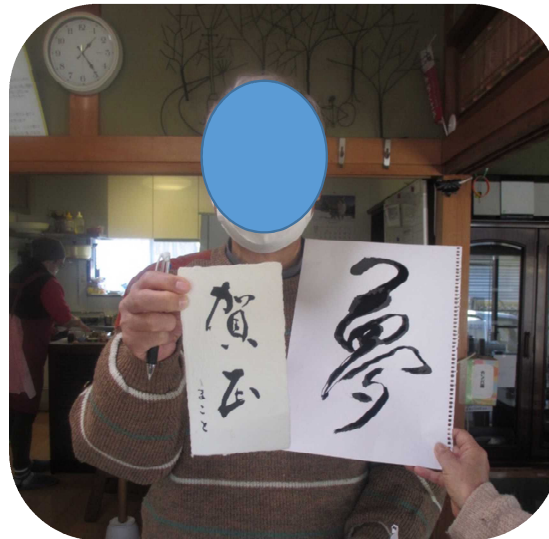
（参加者より）
活動が始まった当初は不安で仕方なかったが、今は楽しい時間を過ごせている。週1回で続けていきたい。

参加者

60歳代 女性 週1回
カフェみちくさ亭 掃除
デイサービス デイ準備



60歳代 男性 週1回
デイサービス 掃除
みちくさ農園 作物
カフェみちくさ亭 掃除



50歳代 女性 週1回
カフェみちくさ亭
仕込み及び弁当作り



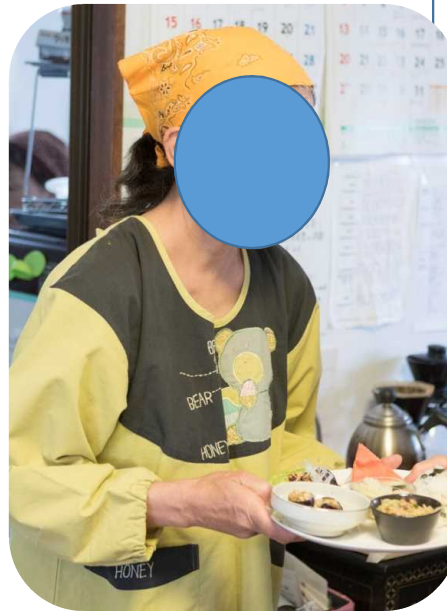
一日のスケジュール 一例

- 10:30 みちくさに到着
- 11:30
- 12:00 食事
- 13:15 デイサービスへ
出かける準備
- 13:40 出発
- 14:00 デイサービスに到着
- 15:30 帰宅準備
- 16:00 帰宅



作業内容等

- デイサービスでの準備手伝い
- みちくさ亭にて茶碗洗いや窓拭きを
○さんと一緒に行く
- 身体を動かすことが好き。
- 同級生とカフェで再会すると懐かしい旧友の話を楽しむ



一日のスケジュール 一例

- 10:30 自宅へお迎え
- 11:15 みちくさ亭に到着
掃除や農園手入れ
- 12:00 食事
- 13:00 デイサービスへ
窓ふき・庭そうじ
- 14:00 デイの準備手伝いや
デイの体操に参加
- 15:30 帰宅準備
- 16:00 自宅へ送迎

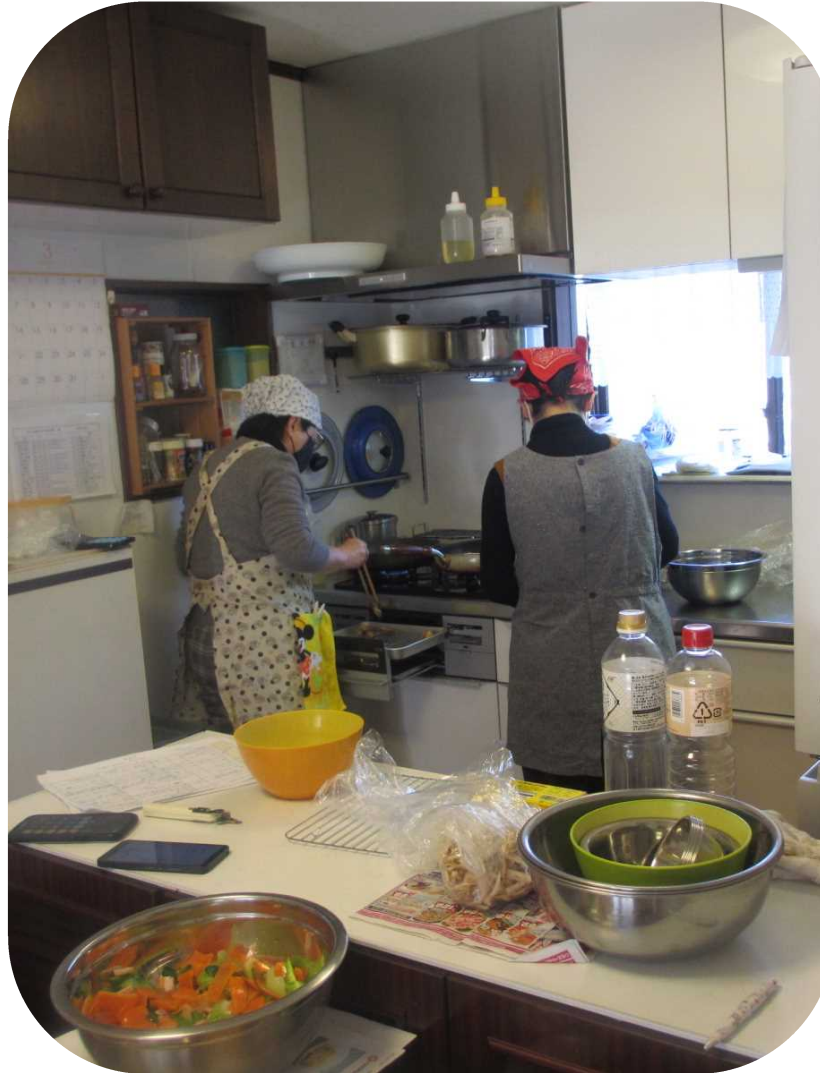
作業内容等

- デイケアに始めて参加
主に窓ふきや掃き掃除を行う
- みちくさ亭にて農園で野菜植え
付けや草むしりを行う
- みちくさ亭で利用者の習字を
見学したり、おしゃべりを楽しむ
- 体力があり、疲れ知らず。
- おしゃべりで人を和ませてくれる



一日のスケジュール 一例

- 8:30 自宅へお迎え
- 9:10 みちくさ亭に到着
ランチ&弁当仕込み
- 11:30 休憩 おしゃべり
仕込み片付け
- 14:00 昼食・片づけ
- 14:30 帰宅準備
- 15:00 自宅へ送迎



作業内容等

- カフェみちくさ亭のランチ&弁当の仕込みをスタッフと一緒にやる
- 会話やレシピの話、好きな料理等の話を楽しみながら行っている



感想、課題など

(委託事業所職員、サポートスタッフより)

デイサービスなないろさんより

男性Oさんには女性ではなかなか手が届かない窓ふきを中心にやっていただき、とても助かりました。女性Oさんは楽しさを感じてもらった時の笑顔が最高でした。

社会参加活動事業の取り組みはとても良いと感じます。若い認知症の人の活躍の場を今後とも社会で広めていってほしいです。また私たち自身このような機会をいただけたことに感謝いたします。

みちくさサポートスタッフより

今回、まだまだ沢山能力が残っている方の意欲を大切にしたいとサポートさせて頂きました。ご本人も私も人に喜んで頂けることを生き甲斐にしましょうと話合っていました。

サポートする人がいればまだまだ体力も能力もある方達が沢山いらっしゃると思います。生き甲斐を持ってもらうことで少しでも病気の進行を遅らせ、何か社会貢献出来るような仕組みが出来るといいなと思いました。

課題：新年度でも継続して支援を行っていくための援助方法が課題

(参加者より)

参加者

50歳代 男性 週1回

一日のスケジュール 一例

9:00 お迎え
10:00 作業開始
12:00 昼食
13:00 お送り

作業内容

- ・ 有料老人ホームでの昼食準備
- ・ 草取り
- ・ 障子張替
- ・ 花植え

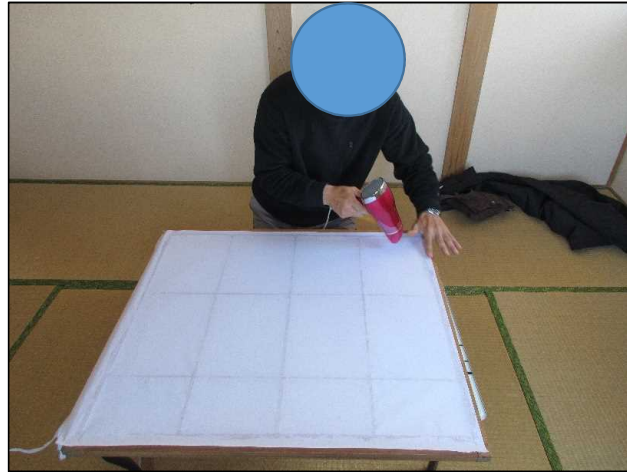
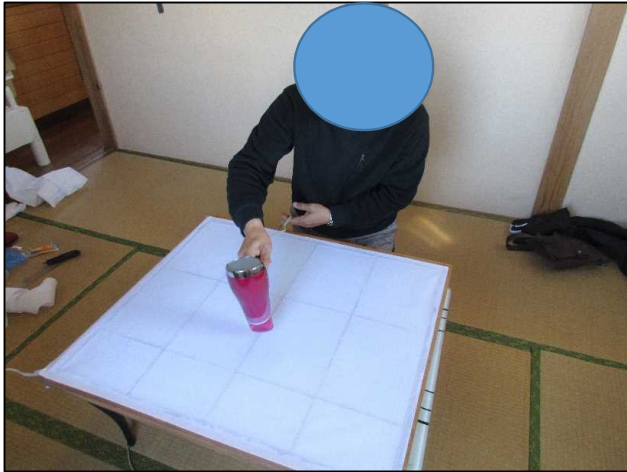
感想、課題など

(委託事業所職員、サポートスタッフより)

- ・ 障子張替作業は、手先が器用な為とても綺麗に張って頂けました。
- ・ 笑顔が毎回すごく笑顔が増えてきております。

(参加者より)

- ・ 障子張替は幼少の頃に毎年手伝いをしていたから、昔を思い出してすごく楽しいと仰せでした。





事業評価アンケート

本モデル事業評価のためのアンケートを実施した。事業参加者や御家族には、事業への満足度や感想を伺い、作業提供事業所や受託事業者には、本モデル事業の取組を継続し、取組に協力いただける企業等を増やしていくために必要なことについての御意見をいただいた。

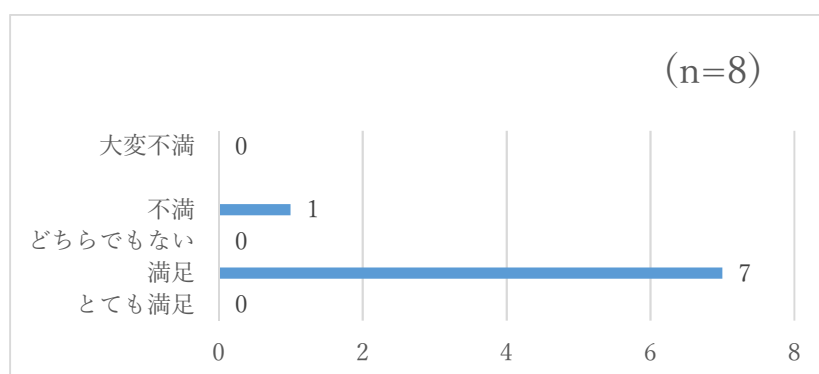
《対象》

- 1 事業参加者（9名）
- 2 事業参加者の家族（9名）
- 3 協力企業等（5か所）
- 4 モデル事業実施事業者（4事業者）

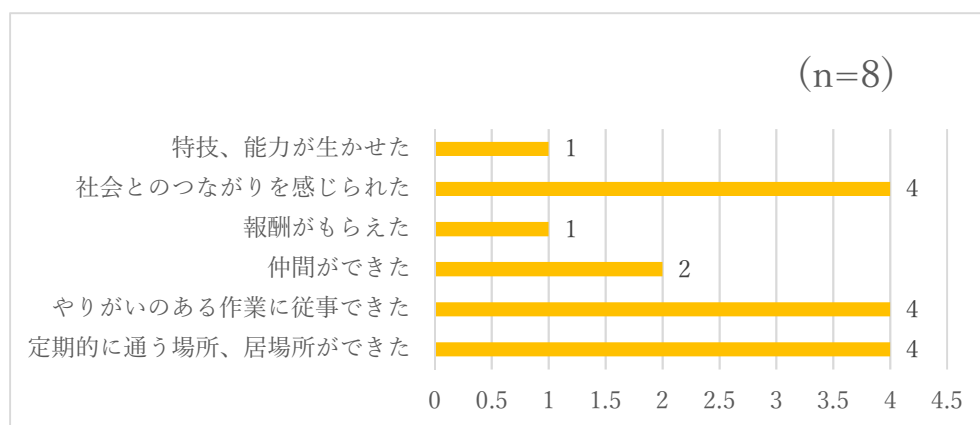
《アンケート結果》（抜粋）

1 事業参加者（8名から回答）

I 事業全体について



II 本事業に参加して良かったと思う事がありましたか（選択式：複数回答可）

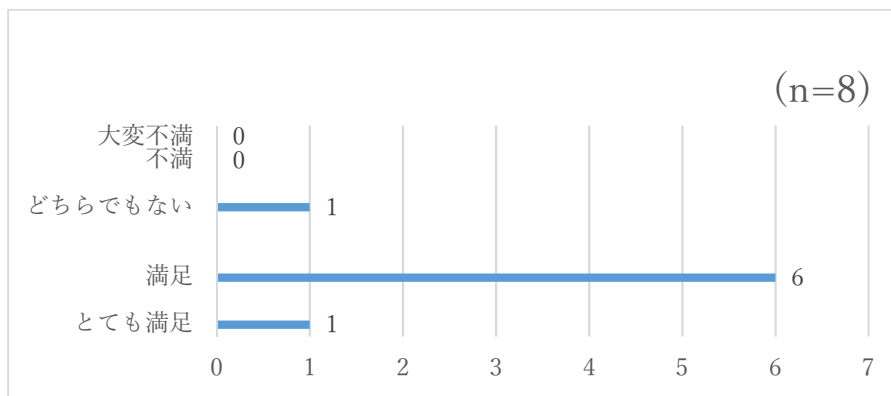


Ⅲ その他、御意見など御自由にお書きください。(具体的に)自由記載(抜粋)

- ・ もっと参加したかった。
- ・ もっとやりたい。
- ・ 利用者様との昼食づくりや障子張り、お花を植える作業等お互いに初めてする作業もあり互いに話し合い協力して作業の楽しみを感じました。

2 事業参加者の家族 (8名から回答)

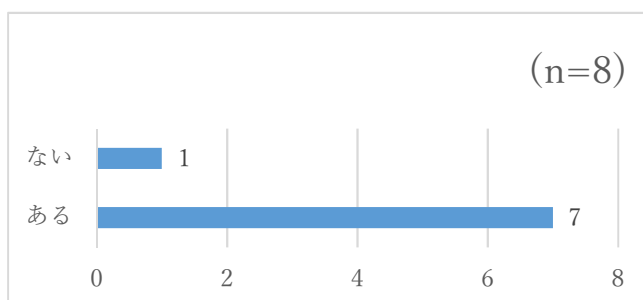
I 事業全体について



Ⅱ 本事業に参加して良かったと思う事がありましたか (選択式：複数回答可)



Ⅲ 本事業に参加して御本人に変化はありましたか



(具体的に) 自由記載 (抜粋)

- ・ 体を動かせることに喜んでいる。このような機会がふだんないのでありがたかった。
- ・ 参加することが楽しみとなった。
- ・ いろんなことが理解できなくなりつつある日常の中で、「自分が選ばれた」という自覚はあるようです。
- ・ 実際にやった行動を話すことができた。
- ・ まだ 3 回程の利用の為、変化は感じられないが、仲間と一緒に料理を作ったり楽しいようです。
- ・ 本人の心に余裕が出来たと思います。
- ・ 自宅では活動参加前は何もしなかったが、活動参加後は率先して手伝い等をする様になりました。

IV その他、御意見など御自由にお書きください。(自由記述(抜粋))

- ・ 現在は、就労支援制度を利用していますが、本事業に参加したことがきっかけとなったことに感謝しています。
- ・ 誰かのために役に立てるということが本人には嬉しいようです。何をしたのか？は覚えていません。聞いても答えられない様子です。それでも”楽しかった”と答えます。感謝しています。ありがとうございます。
- ・ 4月から送迎が実費となり回数を増やしたいと思っていたが、経済的に厳しいと感じる。
- ・ 今後もこのような活動を続けていただくと良いと思います。
- ・ 約半年の参加でしたが、一年位のスパンで行った方が利用者や家族にとっての今後の方針が見える様になると思います。この事業が終了後の当事者のフォローを進めて欲しいと思います。終了後また振り出しに戻ります。
- ・ 全ての活動に本人の感情の起伏があり参加出来ていませんが、これからも参加可能な時には参加できれば良いと思っています。

3 協力企業等 (4か所から回答)

I-(1) 協力企業・作業の募り方、集め方について必要と感じること

- ・ 若年性認知症の人の活躍(好事例)を知ってもらう。
- ・ 「社会参加」の意味やイメージの周知。
- ・ 協力企業のインセンティブ
- ・ 福祉事業所以外の一般企業にも参加を望むのであれば、参加するメリット(企業イメージの向上につながるよう県からもその企業を宣伝する、報酬を与える等)などを提示し、広く情報発信をしないと難しいと思います。
- ・ 受けて側の企業に本当に理解がないと難しい。大手一流企業も若年性認知症の人を受け入れているという社会的なアピールにもなるので行政が「社会参加を！」と進めるならサポートする必要がある。

I-(2) 若年性認知症の方が作業を継続するために必要と感じること

- ・ 協力企業スタッフ、近隣の方からのあたたかいお礼やはげましの言葉
- ・ 重症度と作業のマッチング
- ・ わかりやすい作業内容
- ・ 作業内容がシンプルである方が作業を継続しやすいと感じるが、認知症の方々は一般の方々に比べてある出来事に対して心理的負担をより大きく感じてしまう傾向があると思うので、サポート役の丁寧なフォローとある程度の認知症に対する知識も必要かと感じます。企業側もある程度の認知症に対する知識があればより良いと思います。
- ・ 新しい事に対して不安なので、関係性を築けてきた人がずっとサポートすることが必要である。

I-(3) 作業の対価を得られる仕組みとするために必要なこと <自由記述(抜粋)>

- ・ 作業の完成度と目安(対価)の基準や例
- ・ 収益を得られる作業を認知症の方々に求めるのは酷かと感じますので、ある程度企業側の理解と負担が必要だと思います。
- ・ 行政の補助金のサポートが不可欠
- ・ やはり状態によっては費用対効果は外せないなので、例えば事業所が 300 円/時間

+県からの補助 650 円/時間など

- ・ 行政のフォロー

I-(4) その他必要と考えること 〈自由記述(抜粋)〉

- ・ ご本人の状態(重症度)や日々の活動状態が事前にわかると、作業内容を検討しやすい。(何をどこまで伝えるのか一般の方が考えるのは難しい)
- ・ この支援事業の期間(今回であれば3月末)が終わった後もその企業に継続して通うのか、別の企業に通うのか、通うのであれば誰がサポートするのか、はたまた介護施設に通うのかなどを本人やその家族さんと一緒に考えて決めていくというフォローは絶対に必要。”支援期間が終わったから”というだけの理由で県側が手を引いてしまうのであればそれまで出来上がった関係や本人の生活リズムを崩してしまうことになるので、県も本人やご家族さんに今後も寄り添う意見があることを示すことが本人やご家族さんの今後にとって大切かと思えます。
- ・ 人員の確保
- ・ 本気で考えているなら資金面でのフォロー

II その他の意見 〈自由記述(抜粋)〉

- ・ ご本人が受けているサービスと社会参加活動とで利用中に差が出ると何のための事業かわからなくなる。
(例)デイサービス利用中はほぼじっと座っているが、事業参加中は作業に取り組めるようにサポートする方ががんばる
- ・ 対価を得られるような作業内容に近づける為の準備期間が必要な方もいるのではないかと思います。
- ・ ずっと継続して欲しい。
- ・ 費用対効果を考えるなら職員1としてカウントできないので、資金面のフォローが必須

4 モデル事業実施事業者 (4事業者から回答)

I-(1) 本事業の仕組みを継続させるために必要な費用 <自由記述(抜粋)>

- ・ 介護保険法第一条「…これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活に応じ自立した日常生活を営むことができるよう…」と根拠が書いてあるのに、若年性認知症の支援どころか、お年寄りの支援さえも財源を削られていくのを本気を出してくれないと不可能
- ・ 対象者に支払う賃金の費用が必要になると考えられます。介護保険サービスから調達するのが今は一番現実的であると考えます。
- ・ 交通費、人件費、助成金の活用
- ・ 企業に一人分程度の賃金を支払ってもらいサポーターにも支払う

I-(2) どのような支援のためにスタッフが必要か、スタッフ調達のためにどのような方法が考えられるか。

- ・ 対象者に行って頂く作業のフォローのためにスタッフが必要であると考えます。若年性認知症実践研修を修了した方を対象にスタッフとして働いてもらえるように声かけをしたら良いと考えます
- ・ 若年性認知症を理解していることと、企業の事情も理解していること。デイのスタッフと企業側への理解が深いスタッフ双方の事情を考慮し動くことが必要だと感じた。自社スタッフ又は大手事業者との連携による出向スタッフ。
- ・ 常に付き添う必要はないが、不穏時に対応できる。
- ・ 社会参加のきっかけ作り、社会との交渉
- ・ 会社への理解を深める(認知症の)ための研修
- ・ やはり人件費の支援

I-(3) 協力企業・作業の募り方、集め方について必要なこと <自由記述(抜粋)>

- ・ 短期間では無理だと思う。じっくり関係をつくり、知識がある者をつけないと
- ・ 通所介護事業所、シルバー人材運営母体等に協力を呼びかける。
- ・ 協力を募るためにはこの事業に協力することの企業側のメリットを知ってもらう必要があると感じた。商工会と一緒に説明会を行うなどが必要だと思う。
- ・ 商工会やライオンズクラブ等の参加団体へ啓発

I-(4) 参加者の集め方について必要なこと 〈自由記述(抜粋)〉

- ・ 家族の会との連携
- ・ 県コーディネーター、認知症疾患医療センターとの連携
- ・ 精神科医等に候補者がいないか確認する。
- ・ 市内の若年性認知症の方がどのくらいいるのかを包括も理解していないことが今回分かったので包括への説明を行い、つないでもらう必要性も感じた。

I-(5) その他必要と考えられること

- ・ お金
- ・ まだまだ若年性認知症の理解はうすく、また企業側への負担も多くうけとられることから、具体的に相互理解をすすめていくことが必要だと感じた。

II その他の意見 〈自由記述(抜粋)〉

- ・ 貴重な経験をさせてもらいました。必要性も実感することができました。福祉と商業の連携は今後も必要だと思っています。その間をつなぐ人材こそが大切であると思います。

まとめ

- ・ 事業参加者の約9割が、事業全体について「満足・とても満足」としており、事業に参加して良かった点として、「社会とのつながりを感じられた」、「やりがいのある作業に従事できた」と回答している。
- ・ 事業参加者及びその家族ともに「もっと参加したい」、「今後もこのような活動を続けてほしい」と回答しており、作業提供事業所からは、モデル事業終了後も事業参加者やその家族へのフォローが必要であるとの意見が出ている。
- ・ 本事業の取組を継続させるためには、作業時に本人をサポートするスタッフとスタッフ調達のための費用が必要であるという課題とともに、協力企業を増やすためには、企業に対し認知症への理解をさらに呼びかけるとともに、事業参加へのメリットを広く情報発信することが必要であるという意見が出ている。

若年性認知症の人の社会参加活動支援事業アンケート

本事業への御参加ありがとうございました。
事業をより良いものにするために、アンケートに御協力ください。

当てはまるものに○をつけてください

I 事業全体について

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	大変不満
--	-------	----	---------	----	------

II 本事業に参加して良かったと思う事は何ですか。

- 1 定期的に通う場所、居場所ができた
- 2 やりがいのある作業に従事できた
- 3 仲間ができた
- 4 報酬がもらえた(食事の提供なども含む)
- 5 社会とのつながりを感じられた
- 6 特技、能力が生かされた
- 7 その他()

III その他、御意見など御自由にお書きください。

()

御協力ありがとうございました
千葉県健康福祉部 高齢者福祉課 認知症対策推進班

若年性認知症の人の社会参加活動支援事業アンケート

本事業への御参加ありがとうございました。
事業をより良いものにするために、アンケートに御協力ください。

当てはまるものに○をつけてください

I 事業全体について

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	大変不満
--	-------	----	---------	----	------

II 本事業に参加して良かったと思う事がありましたか。(複数回答可)

- 1 定期的に通う場所、居場所ができた
- 2 やりがいのある作業に従事できた
- 3 仲間ができた
- 4 報酬がもらえた(食事の提供なども含む)
- 5 社会とのつながりを感じられた
- 6 特技、能力が生かされた
- 7 その他()

III 本事業に参加して御本人に変化はありましたか。

- 1 ある(具体的に)
- 2 ない

IV その他、御意見など御自由にお書きください。

()

御協力ありがとうございました
千葉県健康福祉部 高齢者福祉課 認知症対策推進班

若年性認知症の人の社会参加活動支援事業アンケート

本事業への御参加ありがとうございました。
事業をより良いものにするために、アンケートに御協力ください。

I 本事業では、若年性認知症の人が、地域においてこれまでの能力や経験を活かしながら、生きがいを持った生活を送れるよう、社会参加の場を創出することを目指しています。社会参加の場として、地域の企業等に作業の提供をお願いしておりますが、今後この取り組みを継続し、協力いただける企業等を増やしていくために、また、作業の対価を得られる仕組みにするために必要なことについて考えを自由にお寄せください。

- (1) 協力企業・作業の募り方、集め方について

- (2) 若年性認知症の方が作業を継続するために必要と感ずること

- (3) 作業の対価を得られる仕組みとするために必要なこと

- (4) その他必要と考えられること

II その他御意見ございましたら、御自由にお書きください。

御協力ありがとうございました
千葉県健康福祉部 高齢者福祉課 認知症対策推進班

若年性認知症の人の社会参加活動支援事業アンケート

I 本事業では、若年性認知症の人が、地域においてこれまでの能力や経験を活かしながら、生きがいを持った生活を送れるよう、社会参加の場を創出することを目指しています。今後は、モデル事業を踏まえて地域の企業と協力しながら、同様の取組を拡げていきたいと考えていますが、そのために必要なことについて考えを自由にお寄せください。

(1) 本事業の仕組みを継続させるために、必要な費用はどのようなものがあると思いますか、また、費用の調達のためにはどのような方法が考えられると思いますか。
(介護保険サービス(デイサービス等)などの既存の仕組みを利用する、または、それ以外の仕組みでも結構です。)

(2) 本事業の仕組みを継続させるためには、若年性認知症の人を支援するためのスタッフが必要だと思いますが、どのような支援のためにスタッフが必要ですか、また、スタッフ調達のために、どのような方法が考えられると思いますか。

(3) 協力企業・作業の募り方、集め方について

(4) 参加者の集め方について

(5) その他必要と考えられること

Ⅱ その他御意見ございましたら、御自由にお書きください。

御協力ありがとうございました
千葉県健康福祉部 高齢者福祉課 認知症対策推進班